

2009年1月30日(金)、丸ビル コンファレンススクエアにおいて、第24回トリアスIRフォーラムを開催いたしました。基調講演に、ドイツ証券株式会社 副会長兼チーフ・インベストメント・アドバイザーの武者陵司氏をお迎えし、「金融危機の帰趨と今後の展望」と題してご講演いただきました。会社説明には、メディシノバ・インク(以下 メディシノバ)にご参加いただき、会社概要、現在開発中の医薬品候補の現状、見通し等につき、ご説明いただきました。

基調講演では、サブプライム問題に端を発した世界的な信用危機の現状と、今後の展望につき、武者氏よりお話いただきました。今年最大のテーマは、「アメリカの再評価」にあり、米国中央銀行・政府による大規模な対デフレ戦争とも言える政策実行が、全世界に蔓延する恐怖の連鎖をもたらしている現状、すなわち将来に対するコミットメント停止状況を打開しうるかにつき、ご説明いただきました。質疑応答も活発に行われ、武者氏と投資家の皆様との熱心な議論が展開されました。

※ 基調講演、ならびに質疑応答の詳細は、Trias Blog (<http://122.212.232.242/wordpress/>) に掲載いたします。"Trias マクロ・ストラテジーメモ09-01-30"をご参照ください。

IRフォーラム概要

基調講演:

「金融危機の帰趨と今後の展望」

ドイツ証券株式会社

副会長兼チーフ・インベストメント・アドバイザー

武者 陵司 氏

会社説明:

メディシノバ・インク (4875 ヘラクレス)

東京事務所代表 副社長 岡島 正恒 氏

臨床開発アドバイザー 松田 和子 氏

会社説明をされる
メディシノバ・インク
東京事務所代表
副社長 岡島正恒氏



質疑応答セッションの
同 臨床開発アドバイザー
南カリフォルニア大学
移植免疫センター副所長
松田和子氏(右)



基調講演に立たれる
武者陵司氏(左)

会社説明セッションでは、メディシノバの岡島東京事務所代表より、バイオベンチャーとして日本と欧米の橋渡し役を目指す同社の企業ビジョン、ビジネスモデル、現在の開発動向などをご説明いただきました。続いて、同社臨床開発アドバイザーの松田氏より、現在開発中の2本の医薬品候補(MN-166、MN-221)について、医師の立場から客観的なご説明をいただきました。両候補品の開発経緯や社会的意義について、医療現場の経験に基づく貴重なお話を伺うことができました。

※ メディシノバによるプレゼンテーション資料、ならびに質疑応答の詳細は、Trias Blog (<http://122.212.232.242/wordpress/>)に掲載のプレゼンテーション資料、ならびに"Trias 企業メモ【メディシノバ・インク (4875 ヘラクレス) 質疑応答サマリ 09-01-30"をご参照ください。

第24回トリアスIRフォーラム後記:

本年初回のIRフォーラムに、平日にも関わらず、多くの投資家の皆様にご参加いただき、大変感謝しております。米国金融市場に端を発した今回の危機は、昨年秋以降、100年に一度と言われる影響力をもって世界経済を巻き込み、金融経済危機に発展しています。基調講演では、このような環境、現在起こっている事象を多面的に分析していただきました。悲観論が支配する現在、現状を地球規模の成長の一段階と見る武者氏のご意見は、新しいパラダイムを見据えた議論を提供して下さったと思います。一方、会社説明では、岡島氏、松田氏より、日米を股にかけるメディシノバのビジネスモデル、現状を説明していただきましたが、武者氏のお話にもあった、先進国がになうべき、新しくより高度なニーズを満たすビジネスモデルの開拓を実践している企業の一例ではなかったかと思えます。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見はフォーラム開催時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

本メモの著作権は、株式会社トリアスに帰属します。当メモの文章の全部または一部、画像や図表その他のデータなどを無断で転載、複製してご利用になられないようご注意ください。社内等でご利用になる場合なども株式会社トリアスまでご連絡いただきますようお願い申し上げます。